

特定術式における術後24時間 以内の予防的抗菌薬停止率

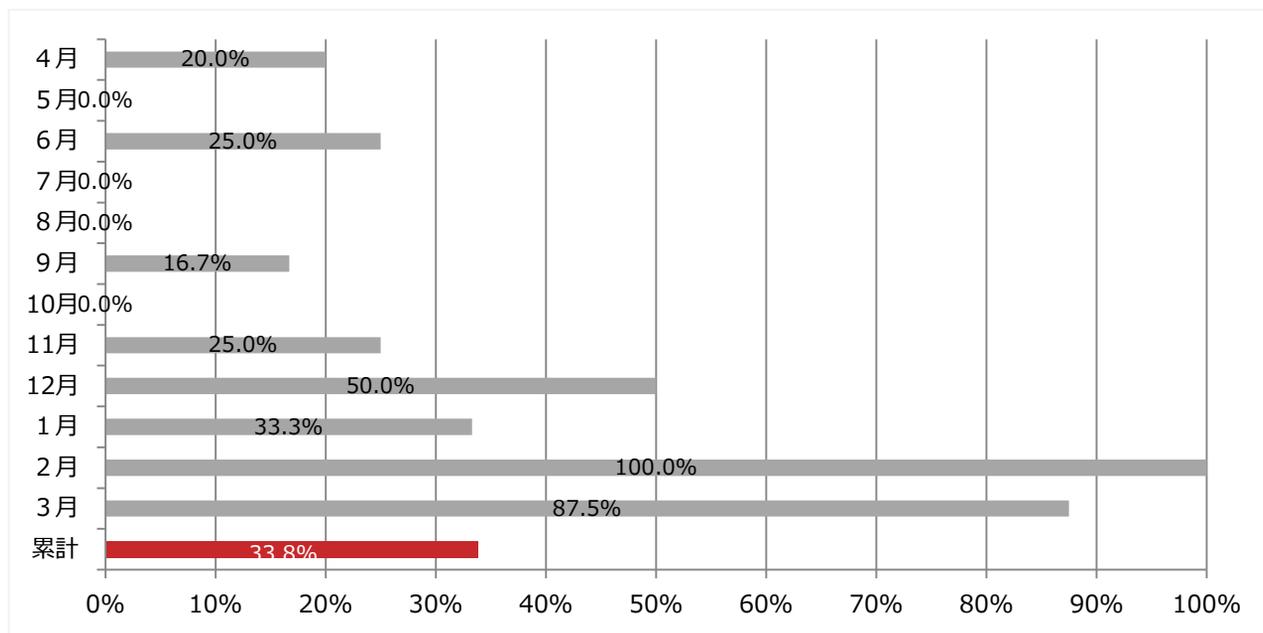
33.8 %

(平成31年4月～令和2年3月)

指標の説明

手術後に、手術部位感染（Surgical Site Infection : SSI）が発生すると、入院期間が延長し、入院医療費が有意に増大します。SSIを予防する対策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があり、手術開始から終了後2～3時間まで、血中および組織中の抗菌薬濃度を適切に保つことで、SSIを予防できる可能性が高くなります。このため手術執刀開始の1時間以内に、適切な抗菌薬を静注することで、SSIを予防し、入院期間の延長や医療費の増大を抑えることができると考えられています。しかし、耐性菌の発生等のリスク回避、予防のための投与であるという観点から、適切な投与停止管理が求められます。本指標はThe Joint CommissionのNQF-ENDORSED VOLUNTARY CONSENSUS STANDARDS FOR HOSPITAL CAREのSurgical Care Improvement Project(SCIP)のSCIP-Inf-3に準拠した定義です。術式は「特定術式における手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率」と同様に、冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘除術の7つ、注射薬だけでなく内服薬も抗菌薬の対象としています。（日本病院会 一部当院にて加筆説明）

(特定手術件数：71件)



値の算出方法

$$\frac{\text{(術後24時間以内に予防的抗菌薬が停止された手術件数)}}{\text{(特定術式の手術件数 (股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術))}} \times 100 (\%)$$